

御土あかし

第35号

発行 五日市郷土館 東京都あきる野市五日市920-1 電話 042-596-4069

春日明神社伝来の小型海獣葡萄鏡

内川 隆 志（國學院大學文学部教授）

はじめに

あきる野市乙津427番地に所在する春日明神社（鈴木泰正宮司）には、市指定有形文化財（工芸品）（昭和44年7月10日）の和鏡8面が知られていましたが、令和3年（2021）7月の調査において、和鏡以外に、古代に遡る小型海獣葡萄鏡1面が存在している事が判明しました。古代に遡るこの鏡は、東京都下で3例目であり全国的にみても非常に貴重な文化財であるため、すぐさまその重要性を報告し、あきる野市文化財保護審議会の審議を経て令和4年3月に市指定有形文化財（工芸品）として指定されました。

本稿では、この小型海獣葡萄鏡について紹介したいと思います。

推定される出土地

天児屋根命あめのこやねのみことを祀る春日明神社は、『西多摩神社誌』に所載される由緒書きによりますと「応永年中（1394-1428）小宮上野介が奈良春日社より村の加茂の原に勧請。今その旧跡から古瓦が出土する。のち里人が奈良山に遷す時、山麓往復の諸人が落馬する事故が続き神の祟りを恐れて現在地に祀った。享保9年（1724）再建、安永4年（1775）改装した。」とあります。由緒に記載されている加茂の原は、若電神社わきかづちの旧社地であり、天文年中（1532-1554）に移され、旧地は加茂原、あるいは、加茂宮跡と称されています。『阿伎留神社誌』によると「若電神社は、加茂別電神かもわけいのかづちのみことを祀る。

三代実録貞観六年七月二十七日武蔵国従五位下若電神に従五位上を授くと載せられている古社で、もと当郷乙津に鎮座せられていたのを、天文年中当社境内にお移した。その旧地はいま加茂原あるいは、加茂宮跡という。」とあります。

小型海獣葡萄鏡を含む鏡鑑群は『西多摩神社誌』に記されている若電神社旧社地から出土したものと伝承されますが、もはやその事実関係を確認する手立てはありません。ただし、遺存状況から判断して明らかに出土資料と言える和鏡も含まれている点は見逃せないところです。

出土地と考えられる若電神社旧社地は、あきる野市乙津141番地付近に位置していたと推定され（図1）、現在は民有地で畑地として利用されています。旧社地は、秋川が落合橋下流で大きく流路を変える付近の左岸に舌状に張り出した南向きの緩傾斜地の標高250m付近に占地していたと思われます。



図1 若電神社旧社地の推定位置（丸範囲）